

北九州市交通局における経営改善について

1 市営バスの経営状況

全国的に、年々、乗合バス利用者が減少する中、北九州市交通局では、経営改善に取り組んできたところである。しかし、平成28年度から3年連続で赤字決算となっており、抜本的な経営改善の取り組みが喫緊の課題となっている。

2 赤字要因の分析

- ①利用者の減少 平成20年度 850万人 ⇒ 平成30年度 570万人 (△30%)
- ②赤字路線の維持 全100系統のうち、70系統が赤字路線
- ③燃料費の高騰 平成28年度 76.56円/ℓ ⇒ 平成30年度 104.70円/ℓ(+37%)
- ④運転者不足 慢性的な運転者不足により時間外手当が増加

3 令和2年度の取り組み目標

H28年度決算（収益的収支）△31,833千円

H29年度決算（収益的収支）△95,189千円 ⇒ 令和2年度決算 収支均衡

H30年度決算（収益的収支）△71,306千円

4 経営改善に向けた取り組み

(1) バス路線の見直し

1日1～2便しか運行していない赤字路線のうち、通学支援便などを除いた、市民に影響が少ない路線の見直しを行う。

(2) 乗合バス休日便の減便

休日の特に乗車率が低い時間帯の乗合バスダイヤの見直しにより、さらに経済性を高めるとともに、運転者不足へ対応する。

(3) 乗合バスの小型化

乗客が少ない路線、時間帯への小型車両（10人乗り）導入により、燃料費等の削減を図る。さらに普通二種免許で運転可能となるため、新たに大型免許が不要な採用区分を設けて、運転者の確保を進める。

(4) ICバスカード回数乗車券（ひまわりカード）のプレミア率（割引率）の見直し

ICバスカード回数乗車券のプレミア率の見直しを行い、収入の確保を図る。

(5) 貸切事業・受託事業の営業強化

企業の従業員送迎等の新規受託事業の受注を進め、増収に努める。

5 取り組みスケジュール

(1)、(2)、(3)は令和2年3月28日から実施

(4)は令和2年4月1日から実施

今後、実施に向けて各取り組みの詳細な内容を策定し、令和2年2月の閉会中常任委員会で報告する予定。